

F R O M N A T U R E

フロムネイチャー No.104

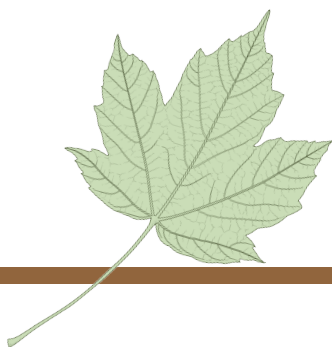
2022年5月



エゾモモンガ

撮影 大橋正明

北海道で泊まった宿のご主人が建物の隙間を塞いだところ屋根裏からゴソゴソと音がするので、穴を開けて様子を見たところエゾモモンガが出てきたそうです。エゾモモンガは日が暮れると屋根裏から出てきて周辺の林に出かけます。懐中電灯の明かりには驚きませんが、大きな音を立てると驚いて屋根裏に戻ってしまうそうです。



福井県自然観察指導員の会

第 35 回総会 in 丹南

鯖江市 牧野晃治



4月16日に池田町の農村 de 合宿センターで第35回総会が開催されました。これに先立ち、14名が池田こんにやく道場でこんにやく作りを初めて体験しました。3年目のこんにやく芋をふかした後にすりつぶし、こねたものが用意されています。水を加えながらさらに練り、炭酸ナトリウム水(凝固剤)を入れ、固まりかけたところで四角い枠木で型を取り、ゆであがりを待ちます。出来たてを試食しましたが、100%生こんにやく芋の濃厚な味わいです。市販の100円こんにやくは90%が水分だそうです。後日スーパーへ見に行ったら300円のこんにやくもありました。値段の違いは味の濃さだそうです。持ち帰った自作こんにやくの味も家族に好評でした。春にこんにやく芋を植え、秋に掘り返して冬に保管、春に再度植えることを3年繰り返すことでこんにやくの材料になるそうで、これだけ手間がかかれば、値段が高くなるのも仕方ないと思います。



昼食後は救急処置講習会です。気温が高くなるこれからの野外活動時の熱中症予防応急手当の方法、ケガ・事故の対処方法を教えていただきました。観察会でも高齢の参加者が増えてきているため、今まで以上に注意が必要です。心臓マッサージの実技もあり、皆真剣に受講しました。



次いで多田会長から福井県でのタンポポ調査の結果報告がありました。従来、在来種は総苞外片が上を向き、外来種は下を向くといわれてきましたが、今では雑種が増えてきており福井県でもセイヨウ型雑種が70%近くになっているそうです。タンポポの分類も花粉を顕微鏡で観察したり、遺伝子を調べたり、外見だけでは判断できなくなっているようです。

14:30 からの総会には 27 名が出席し、決算・事業報告、予算・事業案が承認されました。



コロナ禍で大きく減った行事参加者数の回復を期待したいものです。また、新規に家族会員を設ける案のほか、各行事に掛ける障害保険の契約内容についても検討されました。

この会場は、10月の北陸三県交流会の会場にも予定されています。コロナ感染が落ち着いて交流会や一泊での総会が開催出来ることを願っております。

第20回 自然への誘い展を終えて

担当 斎藤寿子

20回目となる自然への誘い展が、2月26・27日の両日に県立図書館で開催されました。今年も多様な展示作品が集まり、いつもは無機質な図書館のエントランスホールが賑やかに彩られました。親子連れなど来館された方たちが次々に足を止め、展示作品に見入っていました。地道な活動を要した作品や取組みが並ぶ中、電熱板を備えた飼育槽には木片の中にギラファノコギリクワガタが息をひそめていました。触れてもいいということで、さわった子からは感嘆の声が。また、浜辺のように机に並べられた様々な貝を触って、感触や形を楽しむ子も。今回の展示品をとおして自然の美しさや不可思議さ、驚きが伝えられたのではないのでしょうか。

タイトル	出品者
世界の蝶などの標本	伊藤勝幸
ギラファノコギリクワガタ生体展示	梅村信哉
できるかな？昆虫分類クイズ	大西五十二
三国ハマナス公園の鳥の食餌の木の実	北川博正
足跡スタンプとセンサーカメラによる野生動物の生態観察	香川正行
～ちよっぴり覗いてみました～	田淵千鶴子
海岸の拾い物	黒田明穂
	源野みね子
	小泉敬子
野山で集めた木の実や蔓のリース	櫻井知栄子
	斎藤寿子
苔・コケ・いろいろ	小林しのぶ
旅する貝・エコプラン福井活動報告	高島直子
森を通り抜けると笑顔になりました	多田憲市
福井県のタンポポ調査	多田雅充
野菜の話	廣野栄美
赤色立体地図で地形を読み解く	牧野晃治
庭の剪定枝でミニミニ展	町原秀夫
ニシキギ・鳴る砂・オニビシの実など	松本健一
中池見湿地付近の鳥たち	吉田一朗
冬の野鳥レストラン	自然保護センター
2021年度のイベント紹介	指導員の会



福井の自然の魅力を紹介
研究や収集物で紹介
県立図書館で展示
県内の自然の魅力を伝える「自然への誘い展」が26日、福井市の県立図書館で始まった。写真：県自然観察指導員の会のメンバー約20人が研究成果や収集物を披露している。27日まで。同会が毎年冬に開いており、今年で20回目。会員が協力して実施したタンポポ調査では、在来のセイタカタンポポは他の株の花粉がないと種子ができないのに対し、外来は受粉せずに種子ができると対比を説明。在来は自然豊かな山間部で主に確認され、外来は市街地を含め全域で確認されたとしている。

多様なコケや海草で拾った貝類なども展示している。午前9時～午後4時。入場無料。(小柳慶祥)

2月27日 福井新聞

スマレは悩んで楽しむべし

敦賀市 上野山雅子

まだ冬枯れの緑少ない季節にまるで日向ぼっこをしているかのように咲いているスマレ。誰でも知ってる身近な春の野花の代表ともいえる花ですが、見分け方が本当に難しいですね。

私が最初に覚えた見分け方は、距の色が青ければタチツボスマレ、白ならオオタチツボスマレ、距が長いとナガハシスマレ、花が白いのはニョイ(ツボ)



春の中池見湿地を歩く参加者

スマレ。ところがその後、タチツボスマレと思っていたのに小型だったり、葉の形が心形ではないものもあり、それはコタチツボだとかそれもちがうとか、距の白いナガハシもあるよ？などなど混乱を極めていました。そんな私のために開かれたような中池見湿地でのスマレセミナー(4/24)、講師はあのスマレハンドブックの著者、山田隆彦さん。スマレシーズンとしては、後半になってはいましたが、オオタチツボスマレ、ナガハシスマレ、ニョイスマレ、そ



ツボスマレ



オオタチツボスマレ



山陰型タチツボスマレ



ナガハシスマレ

して例の葉が心形ではないタチツボスマレ？も見られ、これは山陰型タチツボスマレとのことで一件落着。

しかし、セミナー担当者の藤野さんが、ぜひ見ていただきたいものがあるといった場所では山田さん、「顔はオオタチだけど距が



オオタチツボスマレ×タチツボスマレ？

青い、う～んけしからんですね」という言葉とは裏腹の何とも楽し気な笑顔(笑)。ちなみにオオタチの顔とは、花の中心の白と花卉の紫の境目に濃い紫の縁取りがあるという特徴のこと。さらに他の場所では、一見距が長くナガハシに見えるけれど、典型的なナガハシを見た後では違和感のある姿のものもあり、なんなんだ？変わり者ですねえなど嬉しそうに困る山田さん。山田さん曰く「スマレは変異や交雑も多く分類はまだ完成していないし、まだ当分はかかるだろう。それにしてもこんなにパッと見てわからないものが多い場所もなかなかない。」

中池見に限らず福井県は生き物の交差点のような場所ですから、私が混乱するのも仕方なかったのかなと思うと同時に、スマレの奥深さや楽しみ方を知ることができました。

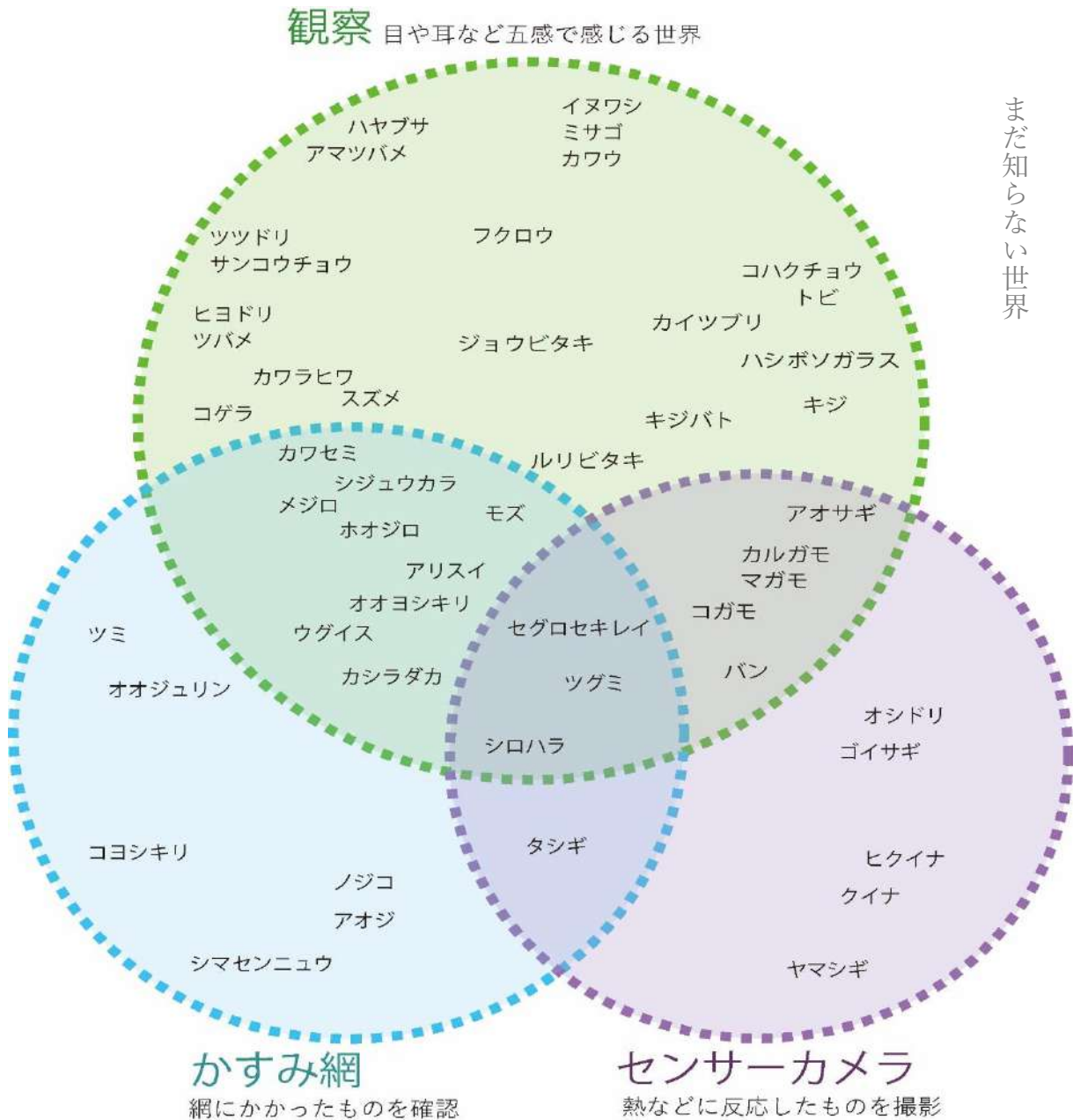
スマレを見て悩んで上等！わからないスマレをたくさん探して楽しみましょう。

自然の中で見えている世界はどれくらい？

越前市 吉田一朗

鳥を観察するようになった時、今まで気付かなかった世界が1つ増えたように感じました。その後、かすみ網で鳥を捕獲する鳥類標識調査（環境省等の許可を得ています）を行うようになった時には、観察では気付きにくい鳥が捕獲されることを実感しました。さらに、センサーカメラで鳥を調査したところ、また少し違った鳥が記録されていました。調査方法を増やし、調査を重ねれば、見える世界が広がると思いますが、知らない世界が無限に広がっているような感じもします。

私が敦賀市の中池見湿地付近で行っている鳥類調査で感じたことを、思いつくままにイメージ図にしてみました。それぞれの世界を点線で示したのは、はっきりした境界がないと思うからです。鳥種の位置は集計したものではなく、あくまで私の感触です。調査地や季節等によっても状況が変わりそうです。どこで、どんな鳥が出るのか分からないことも楽しみの一つです。皆さんが見えている世界は、どんな感じでしょうか？



虫屋のアザミウマ

福井市 柴田智広

福井市在住の柴田です。僕が自然観察指導員の会に入会している理由は、第一には子供のころから生物が好きだったからです。第二にはアザミウマや他の昆虫を調査する機会が多くありますが、「昆虫の調査＝虫の殺生」となりますので、贖罪のためにせめて虫の生息環境保護の活動をしている組織に協力したいという気持ちがあるからです。



全長 2 mm弱

三ノ峰で得られた Thrips 属の (おそらく) 未記載種

専門分野の話をしめすと、僕が専門的に調査研究をしているのは、アザミウマ目の昆虫です。ですので、「専門は何ですか?」と聞かれた場合、「昆虫です」となりますが、ここで大抵の人は、チョウ、トンボ、バッタ、ゲンゴロウ、カブトムシ…といった虫を思い浮かべるに違いありません。しかしそれは誤解になります (一般的な昆虫も少しは分かりますが…)。

アザミウマの仲間は、多くは 1~3 mm程度で目につきにくく、子どもを含む一般の方は、まず知りません。それどころか「虫屋のアザミウマ」といって虫に詳しい人でもアザミウマは知らないことを意味する言葉もあるくらいです。このように一般的ではないものを専門としているためでしょうが、自分の特性を自然観察会などの指導員の活動になかなか結び付けられず、本業で休日の出勤が多いことも相まって幽霊会員と化しています。観察会ですと「ルーペを使って微小な生物を観察しよう」とかならできそうですが、需要がなさそうですし、自分の性格的には指導よりも調査などに向いている気がします。このあたり、良いアイデアがないものか常々思案しております。

さて、アザミウマの研究ですが、学生の頃「ツノオトゲクダアザミウマの生態的研究」に携わって以来妙に縁があって、20年以上も続けています。最近、アザミウマの多様性とそれを生み出す種分化という点に特に興味を持っています。単純に「その場所に何がいるのか」の調査から、環境と種構成の関わりについて福井県内の様々な地点でアザミウマ相の調査を進めています。特に福井市自



ツノオトゲクダアザミウマ雄成虫

然史博物館の梅村学芸員の協力のもとで進めている三ノ峰のアザミウマ相調査は、亜高山帯の脆弱な生態系に属するものであり、自然環境保全の点で意義深いものと考えています。

また、今後はアザミウマ目の Bactrothrips 属、Thrips 属の種分化について多角的に調べていく予定です。これは寄主植物の特定が必要なことが多く、植物に詳しい方の協力が重要です (どなたかにお力を借りるかもしれません)。

最後にできれば僕に適した活動を見つけた上で、会の活動をできたらと思っています。今後ともよろしく願いいたします。



タネから育てて自然観察

坂井市 町原秀夫

タネの発芽試験の報告として、前々号では低温貯蔵による休眠打破の方法と湿潤養生について記しました。今号では発芽環境のうち、適温維持の工夫や発芽後の生育環境を考慮した容器の工夫について報告するとともに、発芽試験に関する文献や実験にも触れてみます。

播種培地について

播種培地とする土は、ホームセンターにビニール袋に入った種まき用土が販売されており、メーカーによって粒度、保水性、排水性、肥料分の有無など土性の異なる培土が入手できます。私の場合、発芽特性を見るために種苗会社製を2種（写真の①②）、その他の会社製2種（③④）を用意して培地を作成しました。発芽対象としたタネは60種以上で、それぞれに特性があり、多くは嫌光性種子でした。キク科植物のような好光性種子（または光発芽種子）の場合、ほとんどは微粒状のタネで覆土はせずに播種培地にパラパラとまきます。



種まき培土

発芽適温について

一般に種子は、5℃くらいの低温から発芽し始めますが、これを発芽最低温度といい、だんだん温度が上がるにつれて発芽も良好になり、ついには最高点に達します。この温度が発芽の最適温度「発芽適温」です。たいてい野菜や草花のタネを購入するとその袋に発芽適温の表示があり、20℃前後が多いように思います。市販野菜のタネでは20～30℃が多いです（発芽試験マニュアル；農研機構遺伝資源研究センター）。発芽促進には電気温床使用が一番。私は沖縄トウガラシの休眠打破のため、家庭用オイルヒーターを用いて発芽適温とされる30℃の温度環境を維持し、また乾燥防止用にトレー上面をラップで覆っています。



発芽適温の工夫

山野など自然界での発芽はどうでしょうか。「野生植物のタネの多くは光発芽種子であるとされる」との記述が放送大学テキスト『植物の科学』にありました。積雪があるような環境では、長期間の低温にさらされた後によりやうく温度上昇や光で休眠が解除されます。私の試験例として、低温貯蔵したハクサンイチゲのタネでは7月に播種しても発芽は翌年の3月でした。どうやら単純に発芽適温に置くだけでは簡単に発芽しないことが分かりました。



ハクサンイチゲの発芽状況

植物種子の発芽関係文献

小さなタネから大きな植物が育つことに関心を持ち、タネからの栽培に挑戦ということで草本に限らず樹木も含めて現在進行形です。日本の維管束植物の約1/4が環境省レッドリストに記載される状況にあります。これまでの発芽試験では農文協発行の『新・種苗読本』や同社の『まんがでわかる土と肥料』、環境省自然環境局作成の『絶滅危惧植物種子の収集・保存等に関するマニュアル』、文部科学省監修『小学5年生理科教科書』などを参考にしました。

かっこいい鳥 シマフクロウ

福井市 大橋正明

4月4日のワイルドライフで「小原玲 命を守る かわいいは最強だ」が放映されました。番組では動物写真家、小原玲さんが亡くなる直前まで撮り続けたシマエナガ、エゾモモンガのかわいい写真が紹介されていました。小原玲さんは、かわいい写真を見て感動してもらい、かわいい生き物の命を守ること、かわいい生き物が生きる自然をどうやって次の世代に残せるかを考えてほしいから、かわいい写真を撮り続けたそうです。この思いは、自然観察指導員である私たちと同じだと思いました。

「かわいい」が最強なら次に強いのは「かっこいい」だと思い「かっこいい鳥、シマフクロウ」を紹介することにしました。シマフクロウの「シマ」は北海道の旧称「蝦夷が島」が由来で、日本では北海道だけに生息しています。体長70cm、翼開長（翼を開いた長さ）180cmになる世界最大級のフクロウで、河川等で魚を捕食し樹齢300年以上の広葉樹の樹洞で営巣します。昔は北海道全域に生息していましたが、現在の生息数は約70つがい、約160羽で道東を中心に生息し、絶滅危惧IAに指定され絶滅が心配されています。生息数が減少したのはシマフクロウが営巣する広葉樹の大木が伐採されたことと餌となる魚類の減少が原因です。環境省はシマフクロウの絶滅を防ぐためシマフクロウ保護増殖事業を実施しています。主な取り組みとして営巣する大木の代わりに巣箱を設置することと、生息域で餌が不足する冬季を中心に給餌が行われています。さらに将来、シマフクロウが営巣するための森林の整備も日本野鳥の会を中心に行われています。

このようにシマフクロウは絶滅が心配され保護活動が実施されている鳥ですから、安易にシマフクロウの生息地、特に営巣地に入るとは慎むべきであり、見ることはできない鳥です。しかし、シマフクロウから人間の生活の場に飛んできてくれる場所が何カ所かあります。もちろん、給餌が行われているからです。人間にとっては貴重な観光資源であり、シマフクロウにとっては貴重な餌場になっていて、繁殖にも成功し時期によっては親子で餌場に飛来してくれます。貴重なシマフクロウを観光資源として利用することに異論がある方もいらっしゃると思いますが、「かっこいいシマフクロウ」を見て感動し、シマフクロウが生きていける自然をどうすれば復活できるのか考えていただける方も多いと思っています。



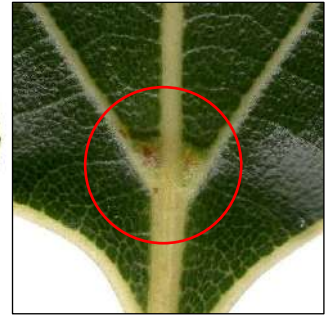
葉っぱのトレードマーク三題

敦賀市 柴田亮俊

植物の中には、葉っぱに一目で名前を特定できるトレードマークを持ったものがあります。観察会にも使えるネタですのでご紹介します。

1 クスノキのダニ部屋

クスノキの葉には、決まった場所に1対のダニ部屋がある。かなり前のことだが、「松原探検」と題した観察会の時、ダニ部屋を発見した子どもたちから歓声があがった。熱帯にはダニ部屋を持つ植物が多いが、日本ではクスノキだけに見られる。その折に「このダニ部屋はダニが作ったのですか？」と尋ねられ、はたと困ってしまったのを覚えている。ところで私はこれまで何度もルーペでダニ部屋を観察してみたが、ダニにお目にかかったことはない。一度見てみたいものだ。



ふくらんだ部分がダニ部屋

2 ヒノキの“Y”

ヒノキの木肌はスギに似ているが、葉の形はずいぶん違う。葉の一部を切り取って裏を返してみると、アルファベットのYの字が並んでいることに気づく。子どもたちには「YY（わいわい）言わなくても、裏を見ればすぐにヒノキであることがわかる。」と説明すると納得してくれる。ちなみに同じヒノキ科のサワラは葉先が鋭く、裏面はほぼ白く見え、YではなくX型になっている。



葉裏に白いYの字が並ぶ

3 ハンゲショウとマタタビ

ハンゲショウはドクダミ科の多年草で、名前は6~7月頃に葉が半分白くなることから「半化粧」の字があてられ、別名「シログサ」とか「シロドクダミ」などと呼ばれている。6~8月に淡黄色の花をつけるが、ドクダミそっくりである。

マタタビも花の時期だけ葉の一部が白くなり、花が終わると、また元の緑色にもどる珍現象を見せる。葉の色が白くなったときに山に行くと、マタタビの群生地を容易に見つけることができる。虫媒花だが、花があまり目立たないので、葉を白くして補っているのかもしれない。



白くなったハンゲショウの葉

私の趣味

敦賀市 田中喜美枝



あなたの趣味は何ですか？と聞かれたら、私は少々困ってしまいます。それは自然観察の他にも楽しみとする物事が、あまりにも多いからです。好奇心が旺盛なのか、俗にいう「やってみたがり」なんのでしょうか？

4月から大好きな「グラウンドゴルフ」が再開しました。仲間は70～80代の高齢者。皆さんお上手なんですよ！だから負けじ

と努力して、早7年が過ぎました。今年は、雪のため室内スポーツにも参加しました。「スティックリング」、こちらも面白いです。英会話やお習字は、継続しなければ



とどんどん学習能力が落ちてしまい、コストがかかることに納得がいかず……そう思いつつも、新しく始めたハングル講座は丸二年目を迎えます。コロナで外出を控え、韓国ドラマにはまったせいです。年会費が千円と、大変お得なのが魅力です。



一番長く続いているのは、今回写真に収めた手芸ですね。自分で作ったアクセサリなどを、月に一度の朝市に並べてみました。作り方を教えて欲しいと言われる方が多く、通信講座でビーズ講師の資格を取り、2004年

に教室を始めました。その後、益々趣味を増やし、現在、ビーズアクセサリ、レザークラフト、人気のかごバックを主に 教室を続けています。もちろん自然観察を忘れてはいけません！重い体に鞭打って天筒山や気比の松原へウォーキングに出かけています。私は沢山の趣味のおかげで、毎日忙しく幸せに過ごせております。好きなことをやらせてくれる主人に感謝しています。今度は、あなたの趣味を教えてください。





四季の自然を巡って

鯖江市 中村雅子

里山中心の山歩きで植物や昆虫、野鳥等の観察を楽しんでいます。里山歩きを通していろいろな生き物が相互に関わりあっていることを知ることができます。私の心に残った自然観察の感動体験を紹介します。

アサギマダラの渡り確認 ～長野県から越知山まで～ (2021年9月19日)

越知山で行われたアサギマダラのマーキング調査の際、長野県小谷村でマーキングされたアサギマダラを捕獲しました。同じ日に関西から調査に来られていた専門家の方にマーキングされていた文字や数字の意味を教えていただき、長野県小谷村で捕獲された個体であることがわかりました。アサギマダラが長野県から越知山に飛んできたことが確認できた瞬間でした。放す時には、南の目的地まで無事に渡って行ってほしいと願いました。

今年も多くのアサギマダラに逢いたいものです。しかし、越知山のアサギマダラの食草であるヒヨドリバナが、鹿の食害で減少していることが気になります。

“文殊山の野鳥レストラン” 大にぎわい (2月7日午前10時頃晴天)

好天の穏やかな日、積雪のある大文殊に到着。山頂の柿の木には、なぜか2月になっても柿の実が多数残っていました。しかし、今日は何事かと思うくらいの騒がしさ。この時期まで残った柿の実を食べに野鳥が集って野鳥レストランの開店中。声のする方に目をやると、ウグイスやメジロの集団が人間のことなどそっちのけでお食事の真っ最中。少数派のシロハラ、ヤマガラも遠慮しながらお食事に参加。柿の木を遠巻きにしているアオゲラ、ヒヨドリ。そして、野鳥達が繰り広げるにぎやかなパーティーを唯々見守っている登山者たち(ちなみに、3日後には柿の実もすっかり食べつくされ、閉店)。あの日登ったからこそ出会えた山頂での野鳥たちによるショーでした。

今年もまた逢えたお花たち！この山のこの場所で！

雪の下でじっと春を待ち、今一生懸命咲いている花々の姿に出逢い心癒され、そして「また来年も必ず元気に咲いてね」とエールを送りました。



ヤマシャクヤク



ヒトリシズカ

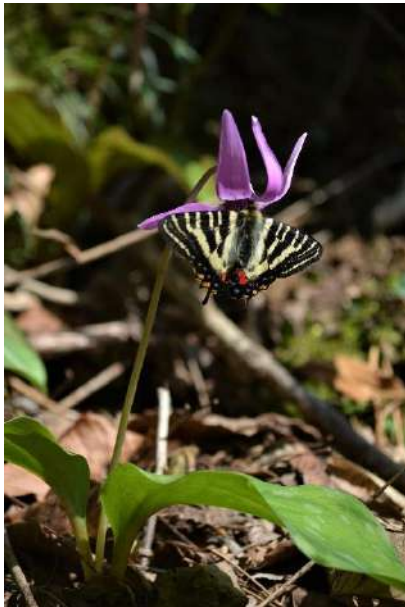


アズマシロカネソウ

シカの増加により、丹南地区の里山でも下草の減少や、リョウブの樹皮はぎ等をよく目にします。下草の減少など植生の単純化は、地表近くで暮らす野鳥や昆虫の生態にも影響をもたらすそうです。「もう来年は逢えなくなってしまうかも」と心配になります。

山友さんのブログや YAMAP、Twitter、インスタグラム、Facebook、YouTube 等で季節の花や鳥の情報などを知り、それを参考にして里山歩きをしています。しかし、貴重な植物の保護の観点からは、山行記録から撮影場所が特定されたり、写真撮影する際に登山道から外れて芽吹いたばかりの植生を踏み荒らす等の問題もあります。

これからも、もっともっと自然の不思議や面白さ、自然の素晴らしさに感動したいです。



ギフチョウ（鯖江市） 廣野栄美



クマガイソウ（高浜町） 山下照世

編集を終えて

4月10日、高浜町でのムサシアブミ観察会に出かけた。福井県を北限とする植物で、かつて蒼島で見たことがあるが、そのときは葉だけであった。地元の会員の方に自生地をご案内いただき、筍のように地面からニョキニョキと花茎を伸ばすムサシアブミの花を観察することができた。新鮮な花が多く、訪れたタイミングもばっちりであった。福井県も広く、自然は多様である。歩いた分だけ初めての出会いも増える。皆で作るこの会報がそんなうれしい出会いに繋がればと思う。 多田雅充

目次

●第35回総会 in 丹南	牧野晃治	……1
●第20回自然への誘い展を終えて	斎藤寿子	……2
●スマレは悩んで楽しむべし	上野山雅子	……3
●自然の中で見えている世界はどれくらい？	吉田一郎	……4
●虫屋のアザミウマ	柴田智広	……5
●タネから育てて自然観察	町原秀夫	……6
●かっこいい鳥 シマフクロウ	大橋正明	……7
●葉っぱのトレードマーク三題	柴田亮俊	……8
●私の趣味	田中喜美枝	……9
●四季の自然を巡って	中村雅子	……10
●Nature フォト		……11